# &choa!

## 4つのduo

高保湿 ＊1　　ツヤ美肌　　エイジングケア ＊2　　肌荒れ防止

シナジー美容液

&choa!
https://shop.andchoa.com/

＊1 当社製品比＊2 年齢に応じたケア


SEKIDO クラシックシリーズ

# THE DEUTSCHE KAMMERPHILHARMONIE BREMEN

**Paavo Järvi,** Artistic Director

Japan Tour 2024

## ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団

芸術監督：パーヴォ・ヤルヴィ

2024年 日本公演

# ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 芸術監督:パーヴォ・ヤルヴィ

2024年 日本公演

## The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen Paavo Järvi, Artistic Director

Japan Tour 2024

THE DEUTSCHE KAMMERPHILHARMONIE BREMEN

## 12.8 日 16:00 横浜 横浜みなとみらいホール

December 8 Sun. 16:00 Yokohama Yokohama Minato Mirai Hall

**モーツァルト:歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲 K.527**
W. A. Mozart: "Don Giovanni" Overture, K.527

**モーツァルト:ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488** [ピアノ:ラファウ・ブレハッチ]
W. A. Mozart: Piano Concerto No.23 in A major, K.488 [Piano: Rafał Blechacz]

| | |
|---|---|
| 第1楽章:アレグロ | 1st Mov.: Allegro |
| 第2楽章:アダージョ | 2nd Mov.: Adagio |
| 第3楽章:アレグロ・アッサイ | 3rd Mov.: Allegro assai |

■ ■ ■

**モーツァルト:交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」**
W. A. Mozart: Symphony No.41 in C major, K.551 "Jupiter"

| | |
|---|---|
| 第1楽章:アレグロ・ヴィヴァーチェ | 1st Mov.: Allegro vivace |
| 第2楽章:アンダンテ・カンタービレ | 2nd Mov.: Andante cantabile |
| 第3楽章:メヌエット、アレグレット | 3rd Mov.: Menuetto. Allegretto |
| 第4楽章:モルト・アレグロ | 4th Mov.: Molto allegro |

## 12.9 月 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

December 9 Mon. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

**シューベルト:イタリア風序曲 D591**
F. Schubert: Overture in the Italian Style, D591

**ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.61** [ヴァイオリン:樫本大進] ~~[ヴァイオリン:ヒラリー・ハーン]~~
L. v. Beethoven: Violin Concerto in D major, Op.61 ~~[Violin: Hilary Hahn]~~

| | |
|---|---|
| 第1楽章:アレグロ・マ・ノン・トロッポ | 1st Mov.: Allegro ma non troppo |
| 第2楽章:ラルゲット | 2nd Mov.: Larghetto |
| 第3楽章:ロンド、アレグロ | 3rd Mov.: Rondo. Allegro |

■ ■ ■

**モーツァルト:交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」**
W. A. Mozart: Symphony No.41 in C major, K.551 "Jupiter"

| | |
|---|---|
| 第1楽章:アレグロ・ヴィヴァーチェ | 1st Mov.: Allegro vivace |
| 第2楽章:アンダンテ・カンタービレ | 2nd Mov.: Andante cantabile |
| 第3楽章:メヌエット、アレグレット | 3rd Mov.: Menuetto. Allegretto |
| 第4楽章:モルト・アレグロ | 4th Mov.: Molto allegro |

## 12.12 木 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

December 12 Thu. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

**モーツァルト:歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲 K.527**
W. A. Mozart: "Don Giovanni" Overture, K.527

**ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.61** [ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス] ~~[ヴァイオリン:ヒラリー・ハーン]~~
L. v. Beethoven: Violin Concerto in D major, Op.61 ~~[Violin: Hilary Hahn]~~

| | |
|---|---|
| 第1楽章:アレグロ・マ・ノン・トロッポ | 1st Mov.: Allegro ma non troppo |
| 第2楽章:ラルゲット | 2nd Mov.: Larghetto |
| 第3楽章:ロンド、アレグロ | 3rd Mov.: Rondo. Allegro |

■ ■ ■

**シューベルト:交響曲第7番 ロ短調 D759「未完成」**
F. Schubert: Symphony No.7 in B minor, D759 "Unfinished"

| | |
|---|---|
| 第1楽章:アレグロ・モデラート | 1st Mov.: Allegro moderato |
| 第2楽章:アンダンテ・コン・モート | 2nd Mov.: Andante con moto |

**モーツァルト:交響曲第31番 ニ長調 K.297「パリ」**
W. A. Mozart: Symphony No.31 in D major, K.297 "Paris"

| | |
|---|---|
| 第1楽章:アレグロ・アッサイ | 1st Mov.: Allegro assai |
| 第2楽章:アンダンテ | 2nd Mov.: Andante |
| 第3楽章:アレグロ | 3rd Mov.: Allegro |

主催:ジャパン・アーツ
共催:横浜みなとみらいホール(横浜公演)
特別協賛:株式会社セキド
後援:ドイツ連邦共和国大使館、アメリカ合衆国大使館、
ポーランド共和国大使館(横浜公演)
協力:ソニー・ミュージック ジャパン インターナショナル、ユニバーサル ミュージック

SEKIDO

ドイツと日本 Zukunft gestalten ともに未来へ

文化庁
文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業対象公演

**パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 2024年日本公演**

12月 7 日(土) 熊本 熊本県立劇場コンサートホール 主催:(公財)熊本県立劇場 ★
12月 8 日(日) 横浜 横浜みなとみらいホール 主催:ジャパン・アーツ 共催:横浜みなとみらいホール ★
12月 9 日(月) 東京 東京オペラシティ コンサートホール 主催:ジャパン・アーツ ☆
12月10日(火) 東京 文京シビックホール 主催:文京シビックホール[(公財)文京アカデミー] ☆
12月12日(木) 東京 東京オペラシティ コンサートホール 主催:ジャパン・アーツ☆
12月13日(金) 所沢 所沢市民文化センター ミューズ アークホール 主催:(公財)所沢市文化振興事業団
12月14日(土) 西宮 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール 主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター ☆
12月15日(日) 大分 iichiko総合文化センター iichikoグランシアタ 主催:iichiko総合文化センター[(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団] ☆
☆ヒラリー・ハーン ★ラファウ・ブレハッチ

# パーヴォ・ヤルヴィ
（指揮／芸術監督）
Paavo Järvi, Conductor
Artistic Director of The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen

Paavo Järvi

エストニアのグラミー賞受賞者パーヴォ・ヤルヴィは、今日最も著名な指揮者の一人として広く認められており、世界中の最も優れたオーケストラとの緊密なパートナーシップを継続している。現在、2004年からの長期にわたりドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団の芸術監督を務め、2024年に就任20周年を迎えた。チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団の音楽監督、そしてエストニア祝祭管弦楽団の創立者・芸術監督を務めている。また2015年からNHK交響楽団の首席指揮者を務め、2022年9月からは名誉指揮者となっている。

これらの常任の地位に加えて、客演指揮者としても人気が高く、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ロンドンのフィルハーモニア管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニックと定期的に共演している。またパリ管弦楽団、フランクフルト放送交響楽団等、かつて音楽監督を務めた多くの楽団とも緊密な関係を維持している。

毎シーズンの締めくくりに行っている活動は、2011年に父親のネーメ・ヤルヴィと共に創立したエストニアのパルヌ音楽祭における1週間のコンサートとマスタークラスである。この音楽祭とその専任オーケストラであるエストニア祝祭管弦楽団の成功は、BBCプロムスやハンブルク・エルプフィルハーモニーでの公演、日本と韓国のツアー等、注目度の高い多数の招待へとつながった。

2019年にドイツ、オーパス・クラシックの「コンダクター・オブ・ザ・イヤー」に選ばれ、ドイツのオーケストラ及び文化環境におけるドイツ・カンマーフィルとの芸術的功績を評価され、ラインガウ音楽賞を受賞した。また、エストニア国立交響楽団と録音したシベリウスのカンタータ集でグラミー賞を受賞。2015年には、グラモフォン誌（イギリス）とディアパソン誌（フランス）の双方から「アーティスト・オブ・ザ・イヤー」に選ばれた。さらにフランスでの音楽への貢献を認められ、フランス共和国文化通信省より芸術文化勲章のコマンドゥールを授与。エストニアの文化の熱心なサポーターである彼は、2013年にエストニア大統領からホワイト・スター勲章を授与され、2015年にはフィンランド人作曲家の作品を幅広い聴衆に届けた功績を認められてシベリウス・メダルを授与された。

エストニアのタリン生まれ。タリン音楽院でパーカッションと指揮を学ぶ。1980年アメリカへ渡り、カーティス音楽院で学びながら、ロサンゼルス・フィルハーモニック・インスティテュートでレナード・バーンスタインに学んだ。

Paavo Järvi

世界屈指の室内オーケストラ、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団は、そのユニークな音楽づくりで世界中の聴衆を魅了している。2004年からエストニア出身の指揮者パーヴォ・ヤルヴィが芸術監督を務め、今年、この“ドリームチーム”は信頼と実りに満ちた20周年を迎えている。

ヤルヴィとの数あるコラボレーションの中で特に注目すべき活動は、10年間にわたるベートーヴェン・プロジェクトである。彼らの解釈はベートーヴェン演奏の規範になるものとして世界中で各方面から高評価を得た。ベートーヴェンの次にはシューマンの交響曲、2015年以降はブラームスに焦点を当てている。後者のプロジェクトのハイライトとなったのは、初演から150年後の2018年4月10日にブレーメン大聖堂で行われた「ドイツ・レクイエム」の演奏で、国際的に賞賛された。

またハイドンの12曲のロンドン交響曲に取り組み、その一連のコンサートが2021年秋にウィーンで行われ、地元の聴衆は「彼らをブラヴィーと長い喝采で賞賛した」（Wiener Zeitung紙）。2022年冬には、ロンドン交響曲を携えて、ハンブルクに始まりウィーンを経由して日本と韓国へと続くアジア・ツアーを行った。2023年4月、ハイドンの12のロンドン交響曲から2曲を収めた最初のCDをリリース。BBCラジオ3から「繊細な調和」、グラモフォンから「命にあふれている」と称賛され、5つ星の評価を獲得。2023年10月には英国の格式あるクラシック音楽専門誌「グラモフォン」からオーケストラ・オブ・ザ・イヤーを、さらにオーパス・クラシック2024からも同賞を授与された。なお次のCDのリリースは2024年末に予定されている。

レコーティングや実験的な試みに対して、エコー、オーパス、ディアパソン・ドール等数々の賞を受賞している。また教育的なプロジェクト「フューチャー・ラボ」は、社会の発展の推進力であり、今や世界的ムーブメントとなっている。

クリスチャン・テツラフ、マリア・ジョアン・ピリス、ジャニーヌ・ヤンセン、イゴール・レヴィット、ヒラリー・ハーン、マルティン・グルービンガー等、国際的なソリストたちと音楽的友情を育んでいる。さらに2022年2月には、若きフィンランド人指揮者タルモ・ペルトコスキが初の首席客演指揮者に就任した。

ドイツ・カンマーフィルは、ハンブルクのエルプ・フィルハーモニーやケルン・フィルハーモニー、また2019年にはラインガウ音楽祭初のレジデント・オーケストラを務め、先駆的なプロジェクトとそれに関連する演奏史の著作物に対してラインガウ音楽賞を授与された。

The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen

The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen

# ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団
The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen

# ラファウ・ブレハッチ
（ピアノ）
Rafał Blechacz, Piano

Rafał Blechacz

2005年、第15回ショパン国際ピアノ・コンクール優勝。マズルカ賞、ポロネーズ賞、コンチェルト賞、ソナタ賞（クリスチャン・ツィメルマンにより創設）、聴衆賞と全てを同時受賞。同世代で最高のショパン弾きと称される。

2014年には、4年に1度、年齢や国籍に関係なく、卓越した優れたコンサート・ピアニストに贈られるギルモア・アーティスト賞を受賞した。

これまでに、ロンドン・フィル、バーミンガム市響、パリ管、ベルリン・ドイツ響、フランクフルト放送響、ドイツ・カンマーフィル、マーラー室内管、ウィーン放送響、カメラータ・ザルツブルク、ロッテルダム・フィル、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、チューリッヒ・トーンハレ管、ミネソタ管、デトロイト響、モントリオール響等のオーケストラや、シャルル・デュトワ、ワレリー・ゲルギエフ、ダニエル・ハーディング、パーヴォ・ヤルヴィ、ファビオ・ルイージ、アンドリス・ネルソンス、ミハイル・プレトニョフ等の世界的指揮者と共演している。

また、ベルリン・フィルハーモニー、ミュンヘン・プリンツレーゲンテン劇場、コンツェルトハウス・ドルトムント、パリのサル・プレイエル、ロンドンのウィグモアホール、アムステルダムのコンセルトヘボウ、ミラノ・スカラ座、ウィーン・コンツェルトハウス、ブリュッセルのパレ・デ・ボザールなど、世界の主要なコンサートホールの他、アメリカやアジアでもリサイタルを行っている。

2024／25年シーズンは、ケント・ナガノ指揮／ハンブルク州立歌劇場管との共演に始まり、その後は、ミラノ・スカラ座、デュッセルドルフ・トーンハレ、ミュンヘンでのリサイタル、中国、日本、韓国でのツアー等が予定されている。

ドイツ・グラモフォンの専属レコーディング・アーティストでもあり、ショパンの前奏曲集を収めたデビュー盤は、母国ポーランドでプラチナ・レコードに認定され、ドイツのエコー・クラシック賞やフランスのディアパソン・ドールを受賞した。また、イェジー・セムコフ指揮／ロイヤル・コンセルトヘボウ管とのショパンのピアノ協奏曲の録音は、ドイツ・レコード批評家賞を受賞。さらに、ショパンやバッハの作品を収録したアルバムや、ヴァイオリニストのボムソリとのデュオ・アルバムも、リスナーやマスコミから好評を得ている。

批評家たちからはそれまでの芸術的功績を讃えて2010年にキジアーナ音楽院国際賞（イタリア）を贈られ、2015年にはポーランド共和国大統領メダルであるポーランド復興勲章カヴァレルスキ十字勲章を授与された。

Rafał Blechacz

# 樫本大進（ヴァイオリン）

Daishin Kashimoto, Violin

©Keita Osada（Ossa Mondo A&D）

ロンドン生まれ。1990年、第4回バッハ・ジュニア音楽コンクールでの第1位を皮切りに、1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーの両国際音楽コンクールでの第1位など、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。

3歳よりヴァイオリンを恵藤久美子に学ぶ。5歳でNYに転居し、7歳でジュリアード音楽院プレカレッジに入学、田中直子に師事。11歳の時、名教授ザハール・ブロンに招かれリューベックに留学。20歳よりフライブルク音楽院でライナー・クスマウルに師事、グスタフ・シェック賞を受賞し修士課程を修了した。

これまで、ロリン・マゼール、小澤征爾、マリス・ヤンソンス、チョン・ミョンフン、パーヴォ・ヤルヴィなどの著名指揮者のもと、国内外のオーケストラと共演を重ねるほか、室内楽にも意欲的に取り組み、マルタ・アルゲリッチ、ギドン・クレーメル、ユーリ・バシュメット、ミッシャ・マイスキー、エマニュエル・パユ、ポール・メイエなどの著名ソリストと共演。

2007年より、自身が音楽監督となって兵庫県赤穂市・姫路市を舞台に室内楽の国際音楽祭「ル・ポン（Le Pont）」を開始。フランス語で「架け橋」の意を持つ名前を冠した本音楽祭は、樫本の声がけで世界一流の音楽家が毎秋参加し話題を呼んでいる。

2010年、日本人として史上2人目のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターに正式就任。オーケストラの顔として活動しているほか、本拠地ベルリンでの定期演奏会やヨーロッパ、アジア・ツアーでの演奏会などでソリストとしても共演している。

2023年、細川俊夫より捧げられた委嘱新作：ヴァイオリン協奏曲《祈る人》を、パーヴォ・ヤルヴィ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と世界初演し、同年夏にセバスティアン・ヴァイグレ指揮読売日本交響楽団と日本初演を行った。

主なCDは、2014年にワーナー・クラシックスから世界リリースもされた、コンスタンチン・リフシッツとの「ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集」など。

1995年アリオン音楽賞、1997年出光音楽賞、モービル音楽賞、1998年新日鉄音楽賞フレッシュアーチスト賞、平成9年度芸術選奨文部大臣新人賞、2011年兵庫県文化賞、チェンジメーカー 2011クリエーター部門、2017年姫路市芸術文化大賞、ドイツに於いてはシュタインゲンベルガー賞、ダヴィドフ賞を受賞。2019年12月より、HiFiオーディオ製品ブランド「VELVET SOUND」（旭化成エレクトロニクス）公式アンバサダー。

使用楽器は、株式会社クリスコ（志村晶代表取締役）から貸与された1744年製デル・ジェス「ド・ベリオ」。

**本日のベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲のソリストは、樫本大進に変更となりました。**



# マリア・ドゥエニャス（ヴァイオリン）

María Dueñas, Violin

©Sonja Mueller

スペインのヴァイオリニスト、マリア・ドゥエニャスは、その技術力、芸術的成熟度、大胆な解釈で、楽器から引き出す息をのむような多彩な色彩で聴衆を魅了する。2002年グラナダ生まれの彼女は、6歳でヴァイオリンを始め、1年後に故郷の音楽院に入学した。2014年、奨学金を得てドレスデンに2年間留学。2016年からはウィーン国立音楽大学で、世界的に著名なヴァイオリン教師ボリス・クシュニールに師事。

権威ある国際コンクールで優勝を重ねたマリア・ドゥエニャスは、2021年ユーディ・メニューイン国際コンクールで優勝と聴衆賞を獲得し、センセーションを巻き起こした。2023年4月には、母国で名誉あるジローナ芸術文学プリンセッサ賞を受賞した。

情熱的な作曲家でもあるこの多才な音楽家は、今や世界中で引く手あまたであり、すでにロサンゼルス・フィル、ピッツバーグ響、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、ミュンヘン・フィル、バンベルク響、シュターツカペレ・ベルリン、オスロ・フィル、スウェーデン・フィルなど、多くの主要オーケストラと共演している。またマンフレート・ホーネック、ヤニック・ネゼ＝セガン、パーヴォ・ヤルヴィ、ダニエル・ハーディング、ヘルベルト・ブロムシュテットなどの一流指揮者と共演。ロサンゼルス・フィルとグスターボ・ドゥダメルとは定期的に共演している。2025年9月にはファビオ・ルイージ指揮NHK交響楽団との共演で来日予定。

ドイツ・グラモフォンの専属アーティストとして、2023年にマンフレート・ホーネック指揮ウィーン交響楽団との初アルバム「ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 他」をリリース。作曲コンクールの受賞歴もあるドゥエニャスは、このアルバムで自作のカデンツァを披露し、高い評価を得た。2025年2月には最新作「パガニーニ：24のカプリース 他」をリリース予定。

マリア・ドゥエニャスは、ドイツ音楽財団から貸与された17?4年製ニコロ・ガリアーノと、日本音楽財団から貸与された1710年製のストラディヴァリウス「カンポセリーチェ」を使用している。

**本日のベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲のソリストは、マリア・ドゥエニャスに変更となりました。**

# Program Notes

小宮 正安(ヨーロッパ文化史研究家・音楽評論家)
Masayasu Komiya

THE DEUTSCHE KAMMERPHILHARMONIE BREMEN

©kaupo Kikkas

©Julia Baier

## モーツァルト:交響曲第31番 ニ長調 K.297「パリ」

10歳代のモーツァルト(1756—91)は、故郷ザルツブルクでの宮廷楽団に勤務していたが、雇い主である大司教との確執もあり、徐々に他の街での活動を目論むようになる。結果、1777年から78年にかけておこなわれたのが、マンハイムやパリへの求職旅行だ。結局のところ目的が叶うことはなかったものの、それでもモーツァルトはパリの出版社と契約を結んだり、この街の音楽家とコネクションを築いたりするなど、様々な成果を上げた。

その実りの1つが、「パリ」という愛称で知られている『交響曲第31番』である。作曲のきっかけは、この街の演奏団体として有名だったコンセール・スピリチュエルの支配人ル・グロ(1739—93)からの依頼があったこと。モーツァルトとしても、パリとの関係を強固にするべく、気合が入っていたのだろう。何度も推敲を重ね、ル・グロの注文を受けて第2楽章を書き直す等した結果、1778年にコンセール・スピリチュエルの演奏会で初演され、大成功を収めた。

第1楽章の冒頭に聴かれる急激な上昇音階は、「マンハイムの打ち上げ花火」と呼ばれる音楽様式で、当時マンハイムやパリで人気を博していたもの。そうでなくても、曲全体にみなぎる華やかさや、全3楽章という形式は、当時のパリの聴衆の好みを反映している。さらにモーツァルトの交響曲では初の、クラリネットを含んだ完全な二管編成となっている点も、コンセール・スピリチュエルの大規模な編成を念頭に置いたものである。

## モーツァルト:ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488

モーツァルトが30歳を迎えた1786年に完成された作品。1784年から86年にかけて、彼は当作品も含め、実に10曲以上のピアノ協奏曲を立て続けに書いている。

ピアノ協奏曲を発表することは、当時のモーツァルトにとって明確な意図があった。それは1781年以降、生き馬の目を抜くような国際都市ウィーンを本拠地とした彼にとって、演奏も作曲もできる優れた音楽家として人々の注目を浴びるための手段だったからである。

『ピアノ協奏曲第23番』は、そうした一連のピアノ協奏曲の中でも、特に高い完成度を誇っている。何しろ速筆で有名だった彼が、当作品に関しては1・2年をかけて様々に構想を巡らせていたらしいことが、実際に使用された五線紙の年代から推測されるほどなのだ。

例えばモーツァルトは多くの協奏曲で、自分が演奏するピアノパートについては適宜省略しながら作曲することが多かったのだが…つまり実演の際には即興も交えてピアノ独奏をおこなっていたのだが…、当作品では最初からそれが完璧に書かれている。独奏者が即興的な腕前を見せて当たり前のカデンツァの部分も、例外ではない。

さらに、長調ではあるが寂寥感に溢れた第1楽章、深い憂鬱に沈む第2楽章、軽やかに飛翔する第3楽章という、各々きわめて印象深い3つの楽章。しかもそれらが、共通の音型を隠し味に密接に結び合っている点も、当協奏曲の完成度の高さを物語る。

## モーツァルト:歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲 K.527

尋常ならざる出だしである。衝撃的な響きが、モーツァルトの時代には「葬送」を意味していたニ短調で出現するのだから。

歌劇『ドン・ジョヴァンニ』が初演されたのは1787年、初演の地は、モーツァルト・ブームに湧くプラハだった。脚本を担当したのは、歌劇『フィガロの結婚』でモーツァルトとタッグを組んだダ・ポンテ(1749—1838)。放蕩な暮らしを続ける貴族ドン・ジョヴァンニが、その報いを受け地獄に落とされるという伝説を基にしながらも、世の中の常識を拒否しあえて破滅への道を辿るという、新たな主人公(ヒーロー)/英雄像を打ち立てた。

そんな歌劇のクライマックス、つまり地獄落ちの危機に瀕したドン・ジョヴァンニが改心を拒む場面で登場する響きが、序曲冒頭の序奏部で予告される。しかもそのような序奏部に続き、快楽に明け暮れる主人公を描くかのように、あっけらかんとした音楽が続くのだから一筋縄ではゆかない。フランス革命勃発を2年後に控えた、ヨーロッパ世界の混沌が凝縮されたかのような序曲である。

## モーツァルト:交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」

ウィーンで華々しい活躍をおこなってきたモーツァルトだったが、晩年は死に至る病を抱え、困窮の生活を送った、と言われてきた。またそうした最中の1788年に相次いで生み出された3つの交響曲…その掉尾を飾るのが『交響曲第41番』…が、何ら上演のあてもなく書かれたということも。

ところが近年の研究によれば、この頃のモーツァルトは新たな転機を迎え、旺盛な作曲活動を展開しつつあったことが、明らかになりつつある。また初演の日時や場所こそ不明だが、これら3つの作品が彼の生前に初演されたであろうことも。

となると、よく分かる。例えば第1楽章が、祝祭性を象徴するハ長調で輝かしく始まったり、提示部の終わりの部分に俗謡の旋律が忍び込ませてあったりするいっぽうで、オーケストラが突如ハ短調で激しい音の嵐を轟かせるといった具合に、モーツァルトならではの実験精神と不意打ちが満載だ。

さらにそれが極まるのが、第4楽章。「ド―レ―ファ―ミ」という音型に基づくフーガを多用したソナタ形式が用いられ、作曲者の腕前が冴えに冴えるフィナーレだが、それも単なる技巧の誇示に終わらない。たとえば再現部の冒頭、件の音型が再び登場する瞬間、そこには提示部とは異なるしみじみとした味わいの和声が付けられている。あたかも過ぎ去りゆく時を振り返り、それを慈しむかのように…。

なお「ジュピター」という呼称は、モーツァルトが付けたのではなく、19世紀前半に広まったもの。いずれにしても、ローマ神話に登場するジュピターを彷彿させるような神々しさを具えた作品という意味であり、交響曲の新たな可能性を押し広げた1曲に他ならない。

## ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.61

現在でこそ「ヴァイオリン協奏曲の王者」とも称される、名曲中の名曲。だが1806年の初演当時には、異例づくめの作品であったことは間違いない。

何しろ第1楽章からして、ティンパニが最弱音でリズムを刻むという、従来の協奏曲には聴かれなかったような出だしである。さらにこのリズムに基づいた提示部を、オーケストラが数分にわたって奏でた後、やおら独奏ヴァイオリンが登場するという幕開け。協奏曲の主役ともいえる独奏楽器が「待ちぼうけ」を食らう、逆に言えば脇役ともいえるオーケストラが雄弁に語るというのが、当協奏曲の特徴だ。

つまり、独奏ヴァイオリンとオーケストラとが四つに組んで、1つの音楽世界を創り上げてゆく。しかもこの特徴は、変奏曲形式で書かれた第2楽章においても顕著で、第1変奏から第3変奏に至るまで、独奏ヴァイオリンは主題を演奏せず、オーケストラに華を添えるような役割に徹する。かと思えば第3楽章は、いきなり独奏ヴァイオリンが主導権を握って始まるという、意表を突く仕掛けも。

当時は、フランス革命の精神を広めることを錦の御旗に、ナポレオン（1769―1821）がヨーロッパ中に戦争を仕掛けていた時代である。ベートーヴェン（1770―1827）の住んでいたウィーンもそんな彼の標的になる中で、ベートーヴェン自身は「戦争」ではなく「音楽」を通じて、革命を起こし続けた。様々な進取の気性に富むと同時に、この協奏曲全体に具わっている安らぎや輝かしさも、そんなベートーヴェンならではの姿勢を物語っているのではないか。

## シューベルト：イタリア風序曲 D591

シューベルト（1797―1828）は、ベートーヴェンを崇拝していたことや、ドイツ歌曲に一時代を築いたことから、「ドイツ音楽」の本流に属する作曲家と見なされている。ただし彼が生まれ育ったウィーンは、この街をお膝元としているハプスブルク家の帝都として、同家の領地が点在していたイタリアからの文化的影響も強かった。

シューベルト自身、イタリアに生まれウィーンで活躍したサリエリ（1750―1825）に師事している。あるいは、イタリアのロッシーニ（1792―1868）のオペラがウィーンで一大ブームを巻き起こすと、それに触発されて曲を作った。その典型が、1817年に書かれた2曲の『イタリア風序曲』（本日はその中から、「第2番」が演奏される）である。

どこが「イタリア風」かといえば、序奏が華々しい和音で始まり、やがて管楽器によってオペラのアリアを彷彿させる旋律が出てくる、あるいは主部に入ると、テンポだけでなくメロディも軽快に疾走してゆく点。また特にロッシーニからの影響を顕著に聴き取れるのは、弾むような三連符に彩られた主部のメロディや、随所に散りばめられた「ロッシーニ・クレッシェンド」と呼ばれる息の長いクレッシェンドに他ならない。

## シューベルト：交響曲第7番 ロ短調 D759「未完成」

シューベルトが25歳の折りの1822年に作られた。当時の交響曲が通常4つの楽章を具えるようになっていたところを、第2楽章までしか完成されず、第3楽章は途中で放棄されたことから、「未完成」という呼び名が後世に付けられた。

といってもシューベルトの場合、少なからぬ作品が未完で終わっているため、そのこと自体は珍しくはない。むしろ重要なのは、シューベルトは先達であるベートーヴェンを崇拝していたにもかかわらず、彼のような闘争型の交響曲を書かなかったこと。対照的に、第1楽章では漆黒の淵がどこまでも広がり、第2楽章ではあまりにも儚くあまりにも美しい憧れが現れては消えてゆく。

当時のシューベルトは、職業音楽家として世の中に認められつつあった反面、大きな苦しみを抱えていた。実は梅毒にかかっており、病が進行した暁に身体や神経を侵され、苦しみ抜いて死ぬのではないかという不安に密かにおびえていたからである。しかも彼を取り巻く社会は、市民の自由を上から押さえつけようとする保守反動政治の下に置かれ、秘密警察官が街角で目を光らせる中、息も詰まるような状態だった。

なお、未完成のまま眠っていた当作品が発見、初演されたのは、シューベルトが若くして世を去った約40年後の1865年。以降、シューベルトを象徴するオーケストラ曲として、不動の地位を築いている。

# The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen

**Paavo Järvi,** Artistic Director

**Concertmaster**
Daniel Sepec

**Violin 2 section leader**
Glenn Christensen

**Violin**
Timofei Bekasssov
Matthias Cordes
Konstanze Glander
Stefan Latzko
Hozumi Murata
Katherine Routley
Zuzana Schmitz-Kulanova
Gunther Schwiddessen
Beate Weis
Emma Yoon
Jeffrey Armstrong
Doretta Balkizas
Saskia Niehl

**Viola**
Friederike Latzko /
Christopher Rogers-Beadle
Anja Manthey
Jürgen Winkler
Julia Pałęcka

**Violoncello**
Nuala McKenna
Marc Froncoux
Ulrike Rüben
Raphael Zinner
Jacob Nierenz

**Double Bass**
Matthias Beltinger
Juliane Bruckmann
Niklas Sprenger

**Flute**
Bettina Wild
Ulrike Höfs

**Oboe**
Rodrigo Blumenstock /
Ulrich König

**Clarinet**
Matthew Hunt
Maximilian Krome

**Bassoon**
Michaela Špačková
Minju Kim

**Horn**
Elke Schulze Höckelmann
Markus Künzig

**Trumpet**
Christopher Dicken
Bernhard Ostertag

**Trombone**
Oliver Meißner
Barbara Leo
Henning Kraft Lars

**Timpani**
Jonas Krause

International Tour Management - Harrison Parrott

KARIN UND UWE HOLLWEG STIFTUNG

KAEFER

Förderer der Deutschen Kammerphilharmonie Bremen

## ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。
寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。
「人のいるところには夢がいる」創業49年来のジャパン・アーツの理念です。
どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、
人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。
これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに
掲載しておりますので、どうぞご覧ください。
今年度も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いします。

アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

## 2024年度ご支援いただいた皆様

### ＜2024年度 年間サポート＞

朝妻 幸雄　F.A.　井上 豊　岩村 和央　上原 啓子　上村 憲裕　M.U.　K.O.　S.O.　小田島 容子
片山 由美子　H.K.　K.K.　栗田 美知子　新貝 康司　M.S.　M.T.　R.T.　A.D.　田中 治郎　F.T.
トゥルーラブ 真智子　トゥルーラブ 真凛　K.N.　E.N.　児子 弥生　S.N.　長谷川 智子　T.H.　樋口 美枝子
M.H.　平山 美由紀　藤野 盾臣　松尾 芳樹　真野 美千代　三木谷 晴子　J.M.　M.M.

株式会社青林堂　株式会社セキド　三井住友カード株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント　株式会社ロジックアンドエモーション
ライフプラン株式会社　Heart of the Earth株式会社　きづきアセット株式会社（匿名希望 26 名）

### ＜2024年度 福間洸太朗に「花を贈ろう！」＞

あかほり みお　厚見 有紀　F.A.　J.A.　池田 惇子　石黒 裕康　石崎 典子　井住 智子　R.I.　A.I.
岩塚 究　K.U.　M.E.　猿渡 かおり　M.E.　大畑 篤子　大原 志津子　大原 みずほ　小山田 美代子
カッキー 柿 信子　柏 香織　T.K.　川島 理絵　駒場 雅世　A.K.　桜猫　桜井 桂子　佐々木 珠乃　佐野 孝枝
A.S.　N.S.　塩崎 勢子　W.S.　A.S.　新里 真美子　進導 幸太郎　鈴木 志保里　N.S.　早田 利江　高島 秀子
鷹巣 綾子　高田 恵子　N.T.　武田 眞子　武田 佳美　辻田 奈津　土屋 麻起　長江 雅子　中嶋 妙子　Y.N.
中島 葉子　S.N.　中村 祥子　A.N.　K.N.　野口 由美　H.N.　林 順子　平井 聖香　平山 美由紀　深堀 悦代
S.F.　伏見 由加　A.H.　R.M.　K.M.　三浦 祐子　三浦 洋子　村田 恵美　村山 幸恵　山口 恵美
依田 晴美（匿名希望 24 名）

### ＜2024年 ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート＞

井口 和美　K.K.　Rimiko　M.H.　M.M.　真野 美千代　水足 久美子　水足 秀一郎　ロロコミ・リリコミ
（匿名希望 12 名）

### ＜2024年 ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート＞

井口 和美　T.O.　K.K.　Rimiko　M.T.　平山 美由紀　細沼 康子　M.M.　真野 美千代　村瀬 治男
ロロコミ・リリコミ（匿名希望 11 名）

2024年11月25日現在　敬称略

ご支援についての詳しい内容は、
お気軽にお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ
アーティストサポート係　TEL.03-3499-7720（平日11:00～17:00 年末年始を除く）